

# 縄文人の食生活

## 小竹貝塚出土の鳥類

### はじめに

小竹貝塚は富山市北西部に所在する縄文時代前期（約 6000 年前）の貝塚遺跡で、1955 年頃に発見されました。現在、遺跡の北側には射水平野が広がっていますが、かつては潟（旧放生津潟）が迫り、その潟べりの微高地を利用して集落が形成されました。

小竹貝塚では、酸性土壌の日本列島では腐って残らないことが多い動植物遺存体など有機質の遺物が貝殻から溶け出すカルシウムの中和作用により保護され、現代まで遺存しました。こうした遺物は、動植物の生態系や古環境、人びとの食生活など多くを探ることのできる貴重な情報源であり、小竹貝塚はまさに“6000 年前のタイムカプセル”と言えます。

2017 年のミニ企画展「縄文人の食生活」展に引き続き、今回のミニ企画展は、富山市教育委員会が行った小竹貝塚の工事立会調査のうち、主に 2008 年度調査区の貝層部分から出土した鳥類遺存体（骨）や鳥類を捕獲した石鏃などの狩猟具の展示をとおして、縄文人と鳥類の関わりを探ります。

### 鳥類の骨からみた小竹貝塚

2008 年の富山市教育委員会の調査で出土した鳥類の骨の資料のうち種類を同定できた総数は 316 点です。資料の組成はカモ科が全体の 50% 以上を占め、これにカイツブリ科を合わせると 70% 以上を占めます（表 1）。このほか、バン類を中心としたクイナ科とカラス科、水鳥のツル属、ウ属、ミズナギドリ科、アホウドリ科など、ほかに少量のフクロウ科やキジ科も含まれます。



写真 1 小竹貝塚から出土した鳥類の骨と石器

これらの鳥の種類から、小竹貝塚の縄文人は河川や湖、沼などの内水域や沿岸や海上で生息する水鳥を主に捕獲していることがわかります。これらの水鳥は「潟」（旧放生津潟）べりで集落を形成していた小竹貝塚の当時の環境をよく表しています。ミズナギドリ科やアホウドリ科などは主に外洋に生息する鳥類ですが、これらはマグロなどを獲る際の合間に海上で捕獲したのかもしれませんが、また、冬期間に飛来する冬鳥を積極的に捕獲してい

表1 小竹貝塚から出土した鳥類と生態

	渡り区分	生息域	富山県内での確認例	出土数
キジ科	留鳥/冬鳥	平地・山地	○	7
ニワトリ	家禽		○	1
ウズラ?	冬鳥	平地	○	1
カモ科	冬鳥/旅鳥/留鳥	海上・内水域	○	186
ハクチョウ属	冬鳥	内水域	○	1
カイツブリ科	留鳥/冬鳥	海上・沿岸域・内水域	○	67
カンムリカイツブリ	冬鳥	海上・内湾・河口付近	○	5
アビ属	冬鳥	海上・沿岸域(まれに河口や海岸近くの湖沼)	○	1
アホウドリ		海上		1
クロアシアホウドリ		海上(アホウドリよりやや沖合)		1
ミズナギドリ科	冬鳥/迷鳥/旅鳥	海上	○	3
コウノトリ	旅鳥	内水域	○	1
ウ科	冬鳥/留鳥	沿岸域or内水域	○	4
ヒメウ	冬鳥	沿岸域(岩礁)	○	1
サギ科	夏鳥/留鳥/旅鳥		○	1
ツル属	旅鳥/迷鳥	内水域	○	1
タンチョウ	迷鳥(冬)	内水域	○	4
クイナ科	冬鳥/夏鳥/留鳥		○	4
バン属	夏鳥/留鳥	内水域	○	4
オオバン	冬鳥/留鳥	内水域	○	7
カモメ属	冬鳥	沿岸域	○	1
タカ科	冬鳥/夏鳥/留鳥	平地・山地・沿岸域・内水域	○	3
フクロウ科	夏鳥/冬鳥/留鳥	山地・平地	○	1
カラス科	留鳥	平地・山地	○	10
合計				316

たこともわかります。

2009～2010 年度に行われた富山県文化振興財団調査の報告でも小竹貝塚の居住域と貝塚部分の両方でカモ科、カイツブリ科を中心とする鳥類の骨が出土しており、組成もとてもよく似ています。しかし、富山県文化振興財団資料では鳥類を解体、加工した痕とみられる資料が全体の約5%に見られますが、富山市教育委員会の調査区域での出土数は全体の約2%にとどまります。また、カイツブリ科、カモ科の部位には、出土量の違いが認められる部分もあります。同じ貝塚内でのこれらの違いは、複雑な堆積状況や食用としての利用を主とした場なのか、製品素材としての利用を主とした場なのかといった場の利用の違いととらえることも可能です。

## 道具類との関係

これら出土した鳥類は、どのようにして捕獲・解体されたのでしょうか。小竹貝塚から出土した道具類の内、鳥類の捕獲に用いられた可能性が考えられる道具としては、石鏃や根挟みなどの弓矢の部材があります。弓矢以外にも罾など考古学的な痕跡が残りにくい方法が捕獲に使われていた可能性も考えられるでしょう。また、解体に用いられたと考えられる道具類として、石匙など石製のナイフ類や剥片があります。

## 主要引用・参考文献(50音順)

納屋内高史・松岡廣繁 2017 「小竹貝塚出土の鳥類遺存体(予報)」『富山市考古資料館紀要』第3号 富山市考古資料館

納屋内高史 2015 「魚類遺存体から見た小竹貝塚」『富山市の遺跡物語』第16号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

山崎京美 1993 「小竹貝塚採集の動物遺存体」『富山市考古資料館紀要』第13号 富山市考古資料館

山崎健・丸山真史・菊地大樹・江田真毅・松崎哲也・三輪みなみ 2014 「脊椎動物遺存体」『小竹貝塚発掘調査報告』第二分冊 自然科学分析編 (公財) 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター